票は選擧立會人に於て處理する事になつた、此新規則に依る選擧が昭和六年に行はれ、協會は屢々機關雜誌上に個人委任は違法であると警告し、從業員は連名で嚴正中立確守を聲明しながら前記三人組は從業員總動員なほ足らずとなし投票掻き集め專任者を臨時に雇入れ、或は海上朝日新聞を買收して意中の人を推薦せしめ、違法の警告も嚴正中立の聲明をも蹂み潰して不正違法を放てし、滑稽にも先に除名された某が掻き集めた不正投票をまで有効とし協會を大衆の手から完全に奪取した。

面白いのは最近盛んに幹部攻擊をやつて居る海上朝日新聞が此選擧直後に理事に都竹氏、評議員の最高点に鈴木氏及從業員が揃ふて高点を以て當選した事を百パーセント禮讃した事である。如何なる理由で如斯極端から極端に豹變したのであらふか。

此選擧後彼等は自己擁護の私黨結成に其鋒鉦を現はした。

海員の船内職務は軍隊式規律下に在る關係上、受有免狀の階級意識が濃厚に植え付けられる。

シカルに彼等は甲種三等の下位免狀を受有するに過ぎず、兎角壓迫蔑視される上級免狀受有者を遠ざけ下位免狀受有者のみに依る私黨ブロックを構築し心ある會員から漸く非難の聲上がらんとした時、カネて懸案の失業船員救濟の授職部が設置され、三人組以下其私黨は鬼の首でも取つたヨーに之を誇稱した。拾萬或は貳拾萬とかの失業者救濟の目鼻がつかず苦慮してをる陸上勞働團体に先んじて、コレを獲得したのは團体の威力もあらふが三人組其他幹部の努力に負ふ處頗る多く私は最高の敬意を拂ふに吝でない、古語に好事魔多しと云ふが此失業救濟で多くの會員を協會に引き寄せたため從來無關心に過ぎて居つた會員をして協會の隅から隅まで透視せしむる多くの機會を與えた、コレがため私黨の醜惡さが次から次えと喧傳されるに至つた、中でも最もヒドイのは某出張所長が『俺れは本部の某巨頭と特別の關係があるから馘になる心配はないのだ』と豪語しつゝ就職斡旋の名の下に親戚及鄕黨の職業紹介に專念し、海事協同會から其多くの事實を摘錄され出張所長の椅子を保ち得なくなつた時、本部は彼のために閑職を設けて之を與え、其の豪語を裏書した。

更に又失業救濟金に關し海員組合長は屢々協會は何物も獲得したのではない、組合が強硬に政府に迫つて獲たものを協會に分與してやつたものであると明言した、然らば協會主